



# 鈴蘭 第10号

発行者 青木 伸弘  
 編集 「鈴蘭」編集委員会  
 〒763-8507  
 香川県丸亀市津森町219番地  
 TEL (0877) 23-5555  
 FAX (0877) 23-6200  
<http://jyujin-mmcc.jp>  
 題字 青木 伸弘

## 今後の病院とクリニックの役割分担

まるがめ医療センター

理事長 青木 伸弘



9月1日より、73年間丸亀市内において知名度のあった「麻田総合病院」は「まるがめ医療センター」として新たな出発をいたします。継続は力なり、事の良し悪しに関係なくこの地域では知らぬ者は居なかった「麻田」というブランド名は終焉となります。病院は、学校やスーパーマーケットと同じで、ライフラインと呼ばれる電気や水同様、誰しもが最初に考える生活の糧であり、重要な存在です。重要な存在の病院が、地域に真に信頼されるには、一体何が大切なのか、原点を思い起す必要があると思います。医療の質の判断は言うまでもなく必要不可欠ですが、医療機関の判断基準は人によって様々なので、一度受診をしてみても自分に合うかどうか確かめてみる事が一番確実です。何故なら、「患者への対応」「設備や環境」「情報の公開」「診療の範囲」「病気の重症度」等々、人により重要なポイントや優先順位が違うからです。一般的に選ばれる病院、信頼される病院とは、「患者目線の立場の医療供給」から始まり「他の病院との連携がスムーズ」「医

師がスタッフから尊敬が厚い」「スタッフ同士の挨拶や雰囲気が良い」「古くても清潔感がある」「丁寧な対応」「入・退院時の指導や説明にそつがない」「プロ意識を感じさせる」「カルテ開示や情報開示に積極的」等々が考えられます。

当院も今回病院名変更に伴って上記のような点について、職員一人一人が自己点検をして、「信頼される病院づくり」の再出発にしたいと考えています。同時に、医療センターになると、疾患別や臓器別などの、患者さんにとって分かりやすい表示が出来るようになり、「より優しい医療機関」になることが約束できます。

一方、向こう2年以内に、クリニックと病院の役割がますますはっきりと分けられると言われていきます。外来主体のクリニックと、入院主体の病院との役割分担です。そろそろ当院も、この機会に体質改善の準備をしないと、近隣の他の医療機関や福祉機関との様々な協力・共存関係は成り立たなくなると視えています。退院をした患者さんは、自宅近隣の通いやすいクリニックへ紹介することから今後は始めた方がよいと思います。病院は、入院や必要不可欠な精査が必要な患者さんだけを診るという役割に変わります。救急も出来る範囲で対応することになり、クリニックからの紹介患者などを断わることは、地域の信頼を裏切る行為になるということだと思えます。現代医療が地域包括ケアシステムを取り入れなければならない以上、地域における様々な要求に対応可能な医療体制を整えていきたいと考えています。

## 麻田総合病院が「まるがめ医療センター」として、新たな一步を踏み出しました



### 地域の皆様の健康を見守り続けて…

当地丸亀で「麻田病院」「麻田総合病院」として、地域の皆様の健康を守り続けた73年。その志を引き継ぎ、2017年9月、「まるがめ医療センター」として新たな一步を踏み出しました。時代とともに取り巻く環境は変わり、人もまた、新たな世代が社会を担っていきます。病院が提供する医療内容は進化し、「まるがめ医療センター」も医療環境の変化に応じて適切な役割を果たそうと努力を重ねています。その中で、ただひとつ変わらないこと。それは、ここ丸亀津森で、地域の皆様のために貢献し続けるということです。その決意を胸に、日々の医療活動にあたってまいります。

# 平成29年9月1日「まるがめ医療センター」として 新たな一歩を踏み出しました。

一昔前に比べると、医療に関する情報は巷に溢れ、テレビやインターネットなどで、自身の病気についての情報を得てから、病院に来られる患者様が増えています。また、地域において医療機関同士で連携を図り、医療における役割を分担する動きも加速しています。こういった背景から、当病院がこういった医療分野に特徴があるかをわかりやすく伝えるために、次の8つの医療センター（ユニット）を立ち上げました。

## 健康管理センター

この「予防医学」としての任務を、あらゆる健康診断・人間ドックを通して果たしていきたいと考えています。

## 総合診療センター

日常生活の中では、原因はわからないが不調を感じるなど、一見何気なくみえる症状であっても、重篤な疾患につながる可能性もあります。治療を通じて疾患の重篤化や慢性化を防ぐこと、専門的な診断治療を行う院内の専門医へつなぐこと、あるいは外部の専門医療機関を紹介することなど、様々な状況に対応することが、総合診療センターの役割です。

## 糖尿病センター

生活習慣病のひとつである糖尿病を、専門のコメディカルスタッフと一緒に問題を解決しながら治療を進めます。

## がん治療支援センター

疼痛緩和や化学療法によって起きる皮膚トラブルに対するスキンケアなど、患者様にとってさまざまなご苦労のあるがん治療を少しでも支援することで、QOL（生活の質）の向上が図れればと考えています。

患者様を  
支える

## 8つの医療センター



## 内視鏡センター

清潔感あふれる検査室で、医師、看護師が安全・安楽な検査を提供します。

## 障害者・難病センター

現代の医学では治療困難な神経難病に罹患された患者様、重度意識障害、四肢麻痺などの患者様の尊厳をまもる医療、また患者様のご家族に安心していただける医療を提供できるよう、細心の注意を払っています。

## 小児リハビリテーションセンター

専門のスタッフがお子さんの心と身体に合わせた早期介入・リハビリ・指導・支援を行います。援助・支援を行うためには、お子さんとはもちろん、ご家族の皆様とのコミュニケーションを結ぶことも大切ですので、心を開いた話し合いをすることを心がけています。

## 乳腺甲状腺センター

乳がんや甲状腺がんの外科的治療を含め、大学病院などとも積極的に連携を図り、患者様の気持ちに寄り添い、ご希望などを伺いながら専門家としての提案をしつつ治療計画を立て、患者様の治療の支援を続けてまいります。

専門的な医療を目指す医療センター（ユニット）だけでなく、患者様の潜在的な疾病診断の窓口となることも、地域に根差した病院としての重要な役割であると考えています。

新連載！

## ICTヒーローズ



はじめまして、ICTの「マモリンジャー」です。ICTとは、フィンフエクションコントロールチーム」と言って感染対策の実行部隊のようなものです。人間の世界と一緒に感染症も日々進化をとげ、昔では考えられないような感染症が増えつつあります。それだけではなく昔からある結核などの感染症も、未だ発症者が絶えません。このような感染症から患者様や職員を守るのがICTの役割です。患者様が治療に専念できるように、また、職員が健康で患者様に接することができるようにチーム一同全力をあげて感染症と戦いますので、ご支援のほどよろしく願っています。



ICTチームメンバー

### 本年8月より当院は岡山大学 消化器外科の関連病院となりました

社団法人 日本外科学会において、外科専門医を育成するための制度があります。この制度は同学会において厳格に管理されており、日本外科学会に入会した外科医が専門医修練施設での手術経験と専門医試験に合格することが必須となります。専門医制度修練施設には指定施設と関連施設があります。指定施設においては専門医を育成するプログラムがあり、大学病院を中心として認定を受けています。関連施設は指定施設即ち、岡山大学消化器外科と密接な連携をとることにより様々な活動を行うことができ、地域住民の方々にもより必要な診療を提供できるものと考えております。

ご家族様、医療機関様からのご利用がますます増えています。患者様の中にはご利用されたことがある方もいらっしゃると思いますが、毎週金曜日に大塚歯科医院の先生と衛生士の方が、各病棟へ訪問診療に来てくださっています。

今までは、患者様個人で訪問診療の申し込みをしていただいていたのですが、医科歯科連携の一環として、もつと患者様にご利用いただけるよう、地域医療連携室が窓口となりご予約のお手伝いをするようになりました。

最近では、お口の中のトラブルが健康状態や生活全般に大きな影響を及ぼすことがわかってきて、歯科検診や口腔ケアの重要性が高まってきました。病気の治療をしていると、どうしてもお口のチェックは疎かになりがちです。気になる症状がおありの方だけでなく、しばらく歯科にご来院されていない方も、ぜひご利用ください。詳しくは病棟スタッフまたは地域医療連携室にご相談ください。



このような当院の「行動指針」に基づき日々の検査業務を遂行するために、私たちがその「環境」を作る立場としての責任を果たすことを目標(夢)としています。今後ともご指導宜しくお願い致します。



### 職場長の夢

検査科  
主任 関 綾子 (写真左)  
主任 大野 まゆみ (写真右)

臨床検査科は、平成27年4月に院内の臨床検査技師を統一した科となりました。16名の技師が所属し、検体・生理・健診と各領域に分かれて日々業務に当たっています。各担当技師は、それぞれの領域についての勉強会・学会に参加するなどして「最新医療に對し敏感であり続ける」よう、また各領域での経験豊富な技師から知識や技術を教わり「技術研鑽を怠らない」よう努力

### 連携室だより

### ふれあい看護体験

今年も8月3日と5日にふれあい看護体験を実施しました。



近隣の高校生9名が参加し、薬剤科、放射線科、リハビリ科などを見学したり、実際に看護師の業務を体験したりして、医療の現場を理解していただきました。指導にあたった看護師のやさしさ、頼もしさにも触れ、皆さん楽しく貴重な体験ができたこと満足していただきました。

### 私の小説放浪記

若いころに「マルクス主義」を少しかじっていたときのことで。マルクス経済学の先生(故向坂逸郎)から「専門バカになってはいけない」とよく言われました。

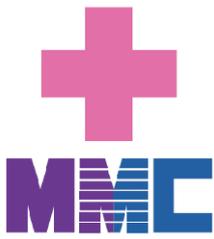


経済学を本当に理解するためには、文学・絵画・音楽等多方面の興味を持つことが大切だということでした。それまでそんなことには全く興味がなかった私は、「どうしたらいいですか」と聞くと、まず「お登勢(船山馨著)」を読みなさいと言われたのです。それが私の小説に興味をもつきっかけとなりました。「お登勢」は明治維新前夜の徳島・蜂須賀藩と、その家老稲田(淡路島)の家来・津田貢とお登勢の物語でした。淡路島・徳島・東京・会津・北海道五稜郭・パリとスケールの雄大な小説でした。たちまち船山馨のとりこになった私は彼を読みふけりました。その後、また先生から云われました。「小説は著者の力作を読みなさい」と。

しかし、どの小説が力作か解らない私は、まず小説の最後にある「解説」を見ることにしました。そのなかでは作品の経路が書いてあり、代表作も列記してありましたので、其れを見て読むようになりました。最初のうちは、「直木賞」を読んできました。次は、信頼する先輩に聞くことでした。それもまた読破しました。そのようにして今度、自分の興味があることに関係する小説を読むようになったのです。私の場合、経済小説、歴史小説特に明治維新に関する物、太平洋戦争に関する物、社会的問題を題材にしている物などです。ほとんどの作品を読破した作家としては、山崎豊子、阿川弘之、城山三郎、大沢在昌、船戸与一、帯木蓬生、等です。最近では、池井戸潤です。彼は人の感情、様子を表現することに関しては一流のものがあると思います。旧通産省の幹部から薦められて「下天は夢か」(津本陽)は織田信長を描いたものとして面白かったです。それ以来4〜5冊読んだが、彼は剣と剣がぶつかるのを非常にうまく描く小説家だと思いました。また、浅田次郎の「蒼穹の昴」、「中原の虹」は清朝末期から中華民国までの歴史小説として読み応えがありました。読まなければいけないのは解るが、その時間が無いと言う人がいます。時間が無いのではなく、買わないからです。読むためには買うことです。買うと「小説」は読んでくださいます。自分の人生に厚みを持たせるためにも読書をお勧めします。

業務推進役 加藤 繁秋

# 新ロゴマークが決定しました



## マークに込めた意味

まるがめ医療センター(Marugame Medical Center)をMMCと表現。+(プラス)は、「患者様+MMC」「丸亀+MMC」といった、地域の皆様とのつながりを表現しています。私たちのめざす「最高・最新・最善」の医療を、高貴・理想を表すパープル(最高)、新しさや清らかさを表すホワイト(最新)、誠実さ・信頼を表すブルー(最善)でシンボライズさせました。プラスの部分はビビッドなマゼンタカラーを採用し、献身・感謝・元気の意味を込めています。

# 講演会を開催しました

5月27日、当院7Fホールにて川崎医大 田中克准教授を講師にお迎えして「甲状腺の病気について-甲状腺ホルモン異常と甲状腺がん-」を演目に盛大に開催されました。



田中先生は乳腺・甲状腺専門医であり、当院でも外来診察を行って頂いております。



丸亀医師会様にもご協力を頂き、当日は患者さんや医療関係者を含めて139名の方にご来場頂き活発な議論が展開されました。関係者の方々には厚く御礼申し上げます。

## 新人紹介

**西森 貴文さん**  
医事課

平成29年6月から医事課に勤務しております。これまで事務の経験は無く、毎日初めての事ばかりで緊張や不安でいっぱいですが、優しい先輩方が指導していただきながら頑張っております。現在は受付で患者様に笑顔で丁寧に対応することを中心として業務にあたっております。受付には患者様ごとにそれぞれ不安や痛みを抱えているので、患者様に合わせた対応が出来るようになりたいです。まだまだ未熟で分からない事、至らない事もたくさんありますが、これから様々な事を学び成長していきたいです。

皆様にご迷惑をおかけすることもありますが、日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 医師紹介

婦人科医師  
小林 靖明

今年の6月より、主に月・水・金曜日の内科検診を担当している小林です。よろしくお願ひします。今までは、岡山大学卒業後、産婦人科医として中四国で勤務していました。香川県は、平成11年より平成15年にかけて土庄中央病院で働いていました。近年は、玉野市立玉野市民病院、そして笠岡市立市民病院を経て当院にお世話になることになりました。婦人科疾患など心配事がありましたらご相談ください。

# ふれあい祭りのご案内

10月15日(日) 午前11時~午後3時

### 体験コーナー

- 医師・薬剤師・保健師・栄養士の相談コーナー
- 骨密度測定
- エコー・顕微鏡で何が見えるかな?
- リハビリスタッフによる体力測定
- AED体験・一時救命について知ろう
- ちびっこナース写真撮影会 などなど♪

### フリーマーケット

振り出し物があるかも!

### 屋台

うどん・たこ焼き・焼きそば・おでん・カレー・あいすくりん・焼き芋...

当日はステキなフラダンスショーやスタンパラリーなど、たくさんイベントをご用意してお待ちしております! ぜひお誘い合わせの上、遊びにきてください。

# スタッフリレー Vol.7



氏名 中西 陽子  
所属部署 看護部 6階 副師長  
前回 谷澤さんからの質問  
Q 憧れている人は居ますか?  
A 母

大好きな母と

私の憧れている人、それは母です。慢性腎不全という特定疾患を持ちながら私を産んでくれました。自分の体調がすぐれない時でも、いつも笑顔で明るく家族みんなに接してくれます。料理も上手で、栄養のことを考えながら作ってくれます。小学生の頃、毎日あたたかいお弁当を届けてくれました。どんなことにも手を抜かず、一生懸命なところ、まっすぐな性格で周りの人を楽しませる事が大好きな明るい母がステキだと思います。次は、いつも元気いっぱいのあの方にたすきをつなぎたいと思います。

私から「あの方」への質問  
小さいころの夢は何ですか?

## 編集後記

野球で云う、ホームランバッターが沢山いるチームが強いとは限りません。一番バッターがヒットで出塁して、二番が送って、三番・四番バッターが返すというように、それぞれが自分の役割をしっかりと果たすチームが本場に強いと言われます。病院もそうです。この度、病院名が変わりますが、外だけでなく中身も変わるためには、これまで以上に自分たちの置かれている「役割」をしっかり果たすようにしなければなりません。そのためにも、自己点検、職場点検を再度おこなう「不足分」を補うことです。

まるがめ医療センターの第一歩は踏みだされました。病院の歩み(歴史)は患者さんと職員一人ひとりが創ります。「良い歩み」を一緒に創りましょう。  
加藤 繁秋